

夢追い人

大川のために、新たな

株式会社ワンズコーポレーション

代表取締役 江口 堅太郎 さん

住所：〒831-0035

大川市大字津648-3

TEL：0944-8516008

FAX：0944-8516018

HP：https://1scorporation.jp

今回の夢追い人は株式会社ワンズコーポレーションの江口 堅太郎さんにお話を伺いました。

〔株〕ワンズコーポレーション

ンは、住宅・店舗・公共施設・宿泊施設の別注家具や建築パーツの製作を行っています。素材はセラミック、天然木や突板、メラミン、ポリ板等、各種幅広く対応いたします。建築事務所やデザイナーの方々が思い描くものを、具現化するお手伝いをしており、列車や船等の家具製作やパーツ製造も行っております。

現在の事業形態に至るまでの経緯を教えてください。

「創業当初はフラッシュ加工を専門に行っていました。このままだと商売が広がらないなと思います、フラッシュ加工は外注に任せるように切り替えました。その後、別注家具製造の依頼が入った際に作ってみると、別注家具のほうが売りが伸びたため、事業をシフトチェンジしました。ただ、別注家具だけでは安定し

ないため、施工・取付まで対応するなど、幅広く受け入れる体制にしています。現在では内装仕上げ業の許可も取得し、内装リフォームにも取り組むことで、売り上げも上がってきています。また屋外用の家具製造も手がけており、雨に当たっても問題のない耐候性のある家具を提供しています。」

江口さんが仕事を行う上で心掛けていることは何でしょうか。

「私は、デザイナーの方々と一緒に仕事をすることが多いので、重視している点やこだわりをしっかりと受け入れることを大切にしています。特にJR九州のクルーズトレイン「ななつ星 in 九州」などを手掛けられた水戸岡鋭治さんとの出会いをきっかけに様々な家具を製作するようになり、



Fukuoka Flower Show

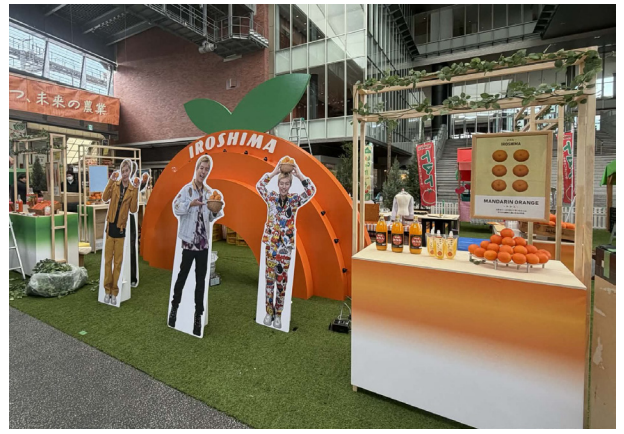


一歩を





ミヤシタパーク



ドラマセット

その後多くのデザイナーの方々からもご依頼を頂くようになりまして。沢山の人の出会いや経験があったからこそ、今の自分があると感じています。」

最近ほどのようなお仕事に携わっているのでしょうか。

「先月は、ドイツニープラスで配信される日韓共同制作ドラマのセットを当社で製作しました。ドラマ内では、セットを手掛けただけでなく当社の屋外用製品も使用されており、作品の世界観づくりを支える一端を担っています。国境を越えた共同制作作品に携わる機会をいただき、当社としても貴重な経験になりましたね。また、直近では福岡の新たな春の祭典「Fukuoka Flower Show」にデザイナーからの依頼を受け、オリジナルテーブルを製作し、当社が携わったガーデンコンテスト作品は最優秀賞を受賞しました。そして、さまざまな花装飾では、当社の屋外用オブジェが旧福岡県公会堂貴賓館に飾られました。本来は別注家具製造業として事業を展開してきましたが、現在はその枠にとどまらず、ますます製品の幅が広がってきています。今後も多様なニーズに応えながら、より一層価値ある

製品作りに努めたいですね。」

大川社中では会長も務めていらつしゃいますが、改めて大川社中とはどのような団体なのか教えてください。

「大川社中は、木工産地の集積地である大川で活動している団体で、幅広い分野の事業所が所属しています。家具産地ならではの技術力や提案力、生産能力を活かし、さまざまな技術者をチームとして一緒に、施主や設計者のイメージをワンストップで、スピーディかつ高品質に製品化しています。各々が専門の事業所として所属しており、互いに協力しながら取り組んでいます。お客様の頭の中にあるアイデアを一緒に形にできるパートナーを目指しており、過去には東京のミヤシタパーク内にあるクラブの内装なども、大川社中として手がけました。一社だけでは請け負えないような案件も、複数の事業所が協力することで可能性と選択肢が広がります。デザインから運送まで、その道のプロフェッショナルが集まっている団体なので、とても心強い存在だと思います。」

事業にとどまらず多方面で活動されている江口さんですが、今回大川でのイベント誘

致をされたそうです。

「今回、大川市大野島にある筑後川総合運動公園で、ハーレーダビッドソン愛好家の方々が集う『バイブズキャリアバン』を開催することになりました。約2000人の参加を見込んでおり、大川での開催は今回で2度目になります。前回はあいにくの大雨に見舞われたため、今回は晴れることを願いながら、関係各所の後援をいただきつつ着々と準備を進めています。今回は、春の大川木工まつりとあえて日程を合わせることで、バイクを目当てに来てくださる方々にも、家具の産地である大川の魅力を知っていただきたいと思っています。木工まつり会場の産業会館と河川敷をシャトルバスで結んでもらったので、イベントを通じて市内を回遊しながら大川の魅力に触れていただけていると思います。市内外から多くの方に来ていただき、宿泊や飲食の需要を促進するとともに、木工まつりの認知向上や家具販売、さらに秋の木工まつりへの集客にもつなげ、大川の基幹産業である家具産業の発展にも貢献できればと考えています。」

イベントを通じた地域活性化に取り組みされる中で、江口

さんの夢を教えてください。

「大川全体でムービングハウスを作れたらいいなと考えています。ムービングハウスとは、その名の通り動かすことができる木造住宅。居住性や断熱性、気密性に優れており、お風呂や簡易キッチンなども備わっているため、長期滞在も可能です。貨物コンテナサイズなので輸出もでき、移設や増設が可能な上、工事の工期も抑えられることが大きな魅力です。全国的に採用する自治体も増えていて、災害時の仮設住宅としても活躍しています。大川は宿泊施設が少ないので、ムービングハウスを取り入れることで地域の課題解決につながりたいと思っています。例えば、高齢者が古い家に住んでいる方の新しい住まいとして利用していただくことも可能で、コミュニティ形成を通じて快適な暮らしに結びつくといいですね。大川は家具の街として運送会社も多いため、輸送の面でも適した地域です。この事業を大川全体で新たに展開し、街として変化や活気を生み出したいですね。県間で貸借することで地域同士の協力もできる、必要なときに即日設置できる「移動型」の住宅として、ムービングハウスの普及促進に取り組みたいです。」